

令和5年度第1回盛岡城跡公園芝生広場整備事業関係者懇話会 議事録

日時：令和6年2月14日（水）13時30分～14時40分

場所：プラザおでって 大会議室

出欠：委員は、別添出欠者名簿のとおり。

報告事項

- (1) 盛岡城跡公園芝生広場整備事業について
盛岡市より、資料を用いて説明を行った。

各委員・盛岡市の発言要旨は次のとおり。

(鎌田委員)

途中経過なく、協定解除の報告だが、別な場所に直営店をオープンすることは本来この会議と関係ないので、連携については、また新たにきっちりとした関係、事業推進を図るべきという印象を受ける。

(盛岡市)

資料の4協議内容の中で、「ア埋蔵文化財」、「エ水道管の接続」については、市から積極的に情報を提供すべきだったが、認定後に判明し、見直しを余儀なくさせてしまった。「イ眺望」、「ウ田んぼの関係」については、皆様の意見を踏まえて、(株)ミナの方も反対意見を抑えて進めたくないという意向であり、計画の見直しを検討された。

これまで、(株)ミナとは一緒に協議をしてきたところだが、「オP-PFIの有効期間」が定められている中で、(株)ミナの判断はやむを得ない。(株)ミナの直営店の件は本市、(株)ミナともP-PFIとは切り離している認識である。なお、(株)ミナからは、今後も本市と文化振興発信をしたいとの意見もいただいております、現時点で具体はないが、今後一緒に取り組んでいければと考えている。

(畑中委員)

埋蔵文化財については事業の前から網掛けされていたのではないかと。洪水浸水想定区域についても公募要項（公募設置等指針）に明記されていない。

また、事業実施に当たり、発掘調査後に埋め戻すレベルの文化財と、発掘せずに保存しなければならないものがあるとがあり、公募後に分かったというのは、ずさんな計画と言わざるを得ない。

また、「オP-PFI」と書いているが、公園みどり課長に認定有効期間の20年の始期につい

て確認したが、設置管理許可が出てからスタートするとの回答であったので、事業は開始していないと思っていた。

いずれにせよ、市の事前チェックが甘いし、どのように考えて進めてきたのか疑問である。

(盛岡市)

埋蔵文化財包蔵地であるとか、洪水浸水区域であることは当然わかっていることで、公募指針（公募設置等指針）に記載すべきであった。P-PFIの認定有効期間については、指針の中で認定してから20年と設定していたので、そのような取り扱いとしている。

(畑中委員)

市は埋蔵文化財包蔵地で、洪水浸水区域であることは把握していたが、交付要綱に記載していなかったのか。

(盛岡市)

記載していなかったものである。

(畑中委員)

都市計画図など図面を重ねて、どのような規制がある土地であるかは行政が一番把握しているはずで、行政の内部で指摘が無かったのが不思議である。

(盛岡市)

教育委員会等とは協議しており、埋蔵文化財の包蔵地であるので、建築位置など試掘の依頼を調整していた。また、上下水道の引込部分も試掘するという事も調整していた。

(畑中委員)

事業提案の計画が出てから調べるというのが、都市整備部の仕事の順番であって、(株)ミナに申し入れするというスタンスだったのか。最初から考え直す時間と経費は莫大になって、損害賠償請求されてもおかしくない重大な問題である。

様々な関係部局と協議して仕事が進んでいくはずだが、公園みどり課が記載しなかったのは意図的ではなかったか。

今回、(株)ミナからはどういう申し入れの内容があったか。

(盛岡市)

(株)ミナからは、公募のプラン承諾後に提示される条件が多く、この場所に建物を建てるべきなのかを含めて、懸念を払しょくできない可能性が高いというご意見があり、上水道の引き込み等々、当初想定していない費用が発生することのほか、芝生広場に建物を建てるのが

適切であるか社内検討の結果により、辞退させていただきたいということ、一緒にP-PFI事業を進めることは難しい状況であるが、北のクラフトのイベントなど、来年度以降も協力してまいりたいという内容であった。

(倉原座長)

皆様から一言ずつお願いします。

(木村委員)

審査の場にいたので、企画だけで選んでよかったのかなという反省はある。

今後P-PFIを進めるのであれば、条件をクリアした場所を用意することを市にはお願いしたい。

また、まちなかににぎわいの場を作るのが大事だなと感じている

(下玉利委員)

今後に向けてしっかりと反省し、盛岡に魅力を感じてくださる方に対して愛される街になっていけるよう、役所だけでなく、民間も協力できるような仕組みを話していけたらいいと思う。

(鎌田委員)

今回のP-PFIありきだけのトイレ整備ではないだろうなと思っていた。既存の歴史館の中のどこか、あるいは外に設置したり、民間企業に協力してもらって、安く設置するなどの検討が必要だと思う。

観光客などへの利便性や心地よく過ごしてもらうことを考えていくことが必要だと思う。

(谷藤委員)

埋蔵文化財について、今から議論するのもおかしな話である。当初、4年前来た時にも話したが、岩手公園内のトイレがなくなり、近隣公共施設のトイレを借りていたと利用者から話を聞いていた。

公園、お城跡であるので、お城に関係する建物でも建てていただければ、出しものをやっていくうえでとてもありがたいし、人が集まり、にぎわいも出てくると思っていた。

(畑中委員)

史跡の中にはほぼ建物は建てられないが、1haはまちなかに残されている広場で本当の公園らしいものである。広場があるから建物を建てればいいというのは、逆に言えば貧しい発想だと思うので、広場をそのまま残しておく発想がないことに疑問である。

盛岡のまちなかにそのような広場が余り残っていないので、大切にしてほしい。

最後に、今後も P-PFI 対象地として考えているのか。トイレの整備については PFI と関係なく考えていくのか、お聞かせいただきたい。

(佐々木委員)

近隣にバスセンターや monaka が整備され、今回の P-PFI が整備されると、新たな盛岡の名所となり、動線ができて、少し今より良くなるねと言っていたので、残念である。今後も盛岡市を中心に市民の意見を聞きながら、魅力ある岩手公園が整備されることを祈っている。

(坂本委員)

今回の報告内容は残念である。石垣の眺望は最初からどうするのかと思っていたし、芝生広場の整備に長期間掛けてきたので、埋蔵文化財調査は終わっているものとの認識であった。

海外の方は盛岡駅から歩いてくるので、櫻山神社付近がちょうどトイレに行きたくなる地点のようであり、トイレを使用される頻度が増えたものの、参拝はしない状況である。トイレの有無は大事だと感じている。

(柴田委員)

経済的に盛岡の盛り上がりとして残念な思いはするが、これからも見直していただく話もありますし、芝生広場には永久的な建物ではなく、広場の活用という形でも盛岡を盛り上げていきたいということはあるがたいお話だと思っている。(株)ミナさんに失礼な結果になってしまったが、ありがたく言っているように、いい関係を続けながら、盛岡の街も賑わっていきけるような展開に結び付けられるように、我々も協力していく必要があると感じた。

(松浦委員)

本日伺った限りでは、合意形成が取れてなかったということが、反省点として挙げられると感じた。

土地の特性を改めて理解したうえで、P-PFI という手法が適切なのか、検証する必要がある。民間企業はここに価値を見出し、町おこしをしながら利益を上げていくという非常に大切な方策かと思うので、P-PFI も全国に様々な成功事例もあるので、見直ししながら、またできればいいのかなと思う。

(福島委員)

今回の話は、始まる前に終わってしまった感はあるが、先ほどのお話を聞いていると、陰悪になって(株)ミナとの関係が切れてしまったわけではなく、事業的な側面があるので、盛岡

市として、市民として、挽回のチャンスがあるのかなと感じている。

市においては、今回のことを糧に一番しっかりとした体制づくりをして、盛岡市を好きになってくれる方や地域と安心して官民連携する関係になればいいと思う。

今日の資料は経緯までしか書いてないので、今後どうするかということをも市民や事業をやられている方に提示していくことが大事かなと思う。

盛岡市は都市戦略的にまだまだ甘いと感じて全国に知らしめている。神戸、四日市などの中核都市は都市の中心部をどのように創っていくのか戦略を立てて計画的に公共事業に取り組んでいるので、もう少し先を見た意識改革を市民と一緒に考えていくことを増やしていく必要があると思う。

(広田副座長)

今回の件は、チェックが甘かったと言えればそのとおりで、責任の一端を感じている。

先ほどの「イ眺望」の件も、史跡整備基本計画や植栽管理基本計画を最近委員会で初めて知ったが、審査したときは計画の存在を認知していなかった。

規制等の前提や歴史性、関連計画への配慮は公募の前に示すべきで、これら無しに最初のプランを立ててしまったところは反省しなければならない。

普通なら盛岡と縁を切ると言われても仕方がないが、元々岩手の手仕事文化に共感を持っている方なので、大きな直営店にならないでしょうけど、盛岡との関係を保っていきたいと言っていたのはありがたいと思う。

(倉原座長)

皆さんから一言頂いた中で、いくつか質問があったので、事務局からご回答ください。

(盛岡市)

P-PFI、芝生広場の活用、トイレという部分については、考え方をしっかり検討して、次につなげていくと強く思ったところである。

ご質問があった今後のP-PFI、トイレの話については、既存のトイレが史跡の中にあるので、トイレの整備を優先に取り組まなければならないと考えている。相当の事業費になると思うので、計画的に進めなければならない。整備手法は早急に検討したい。

P-PFIありきとは考えていないので、今のところはできるだけ早く整備することに目標を設定していく。

P-PFIという事業手法は、行政にとって大きなメリットがあるが、事業者があつてこそであり、様々な条件を勘案しながら、進める上での体制、やり方を整理していきたいと考えている。

(畑中委員)

今回のP-PFIは令和3年度の広報もりおかの裏表紙に掲載されただけで、特に市民に対して積極的に意見を募るとか、市民と接触を持っていただきたいなということを公募委員としては、お願いしたい。

(盛岡市)

市民との接点という部分については、(株)ミナ側からも市民とのコミュニケーションを取りたいという意向があり、我々もスケジュールの中に、対話する機会を何度か設定したが、コロナ禍でできなかつたというのは残念であった。今後の進め方を考える上では参考にする。

(倉原座長)

P-PFIの器がしっかり整ってなかつたのは残念であったし、恵まれているが故に甘い部分があったことは反省しなければならない点である。

一方、今後も(株)ミナとはつながりがあり、予定されていた芝生広場では別の形、類似した形でできるということは期待できると思う。

行政だけではなく、市民、民間、関係者が見守り、関与し、意見できるような仕組みのために情報を途絶えないようにすることが大事である。

内丸ビジョンに続く検討も進んでいると思うが、単に空間的なイメージではなく仕組みとしても、考えなければならないと思う。